

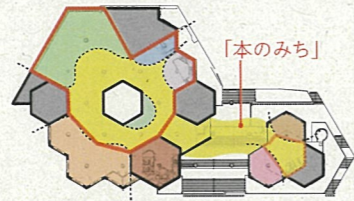
「本のみち」でつながる子ども図書館

「本のみち」によって多様な遊びと学びの居場所がつながる
インクルーシブな図書館をつくります

設計コンセプト

本の道が多様な居場所をつなぐ

- ・フロア全体を周遊する「本のみち」が、多様な居場所をつなげます。
- ・障がいの有無や国籍のちがいに問わず、図書館を訪れる多様な人々に開かれた、インクルーシブなデザインとします。
- ・南北のフロアをつなぐ屋外にも移動式家具等を展開することで、「本のみち」を地域へ開きます。
- ・配架エリアを窓際から離すことで、本の劣化に配慮しつつ窓から光を取り込みます。



- 本のみち
- 貸出返却管理
- プレイグラウンド
- だんだんテラス
- 体験学習スタジオ
- 展示ギャラリー
- カフェ・ラウンジ
- 乳児スペース
- 幼児スペース
- 主たる配架エリア

「親子フロア (1階)」のデザイン及び機能についての提案

ゆるやかに空間を仕切りつつ見通しやすい親子フロア

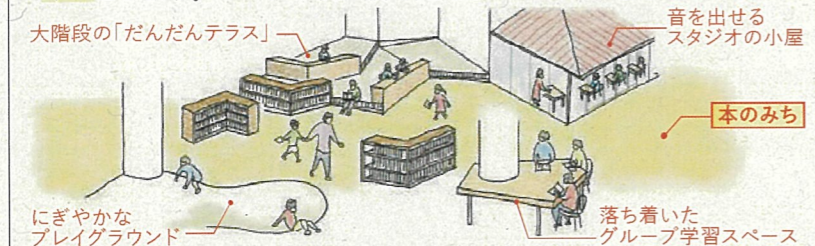
- ・曲線の本棚がゆるやかに空間を仕切ります。幼児と乳児のゾーンをやわらかく分けることで、年齢や特性の違う子どもたちが安心して過ごせるようにします。
- ・絵本を読むやわらかい床や、のぼりたくなるスロープ、トンネル状の居場所など誰もが自分の場を見つけられる、五感を触発する空間とします。
- ・家具を低く抑えることで視線が抜け、大人が見守りやすい計画です。



「子どもフロア」のゾーニングについての提案

自ら居場所を選び取って学び、遊ぶ子どもフロア

- ・体を動かすプレイグラウンド、本棚で仕切られたグループ学習コーナー、本棚が地形的に連なる「だんだんテラス」、音の出せるスタジオなど、フロア外周部に多様な居場所をつくり「本のみち」でつなぎます。
- ・「本のみち」と外周部の居場所の間には、本棚と一体のベンチや机などでゾーン分けすることで、性格の異なる居場所が共存できるデザインとします。ベンチや机は親の見守りスペースにもなります。



業務の成果物等の品質確保、取り組み体制についての提案

ともに作るプロセスを大切にする

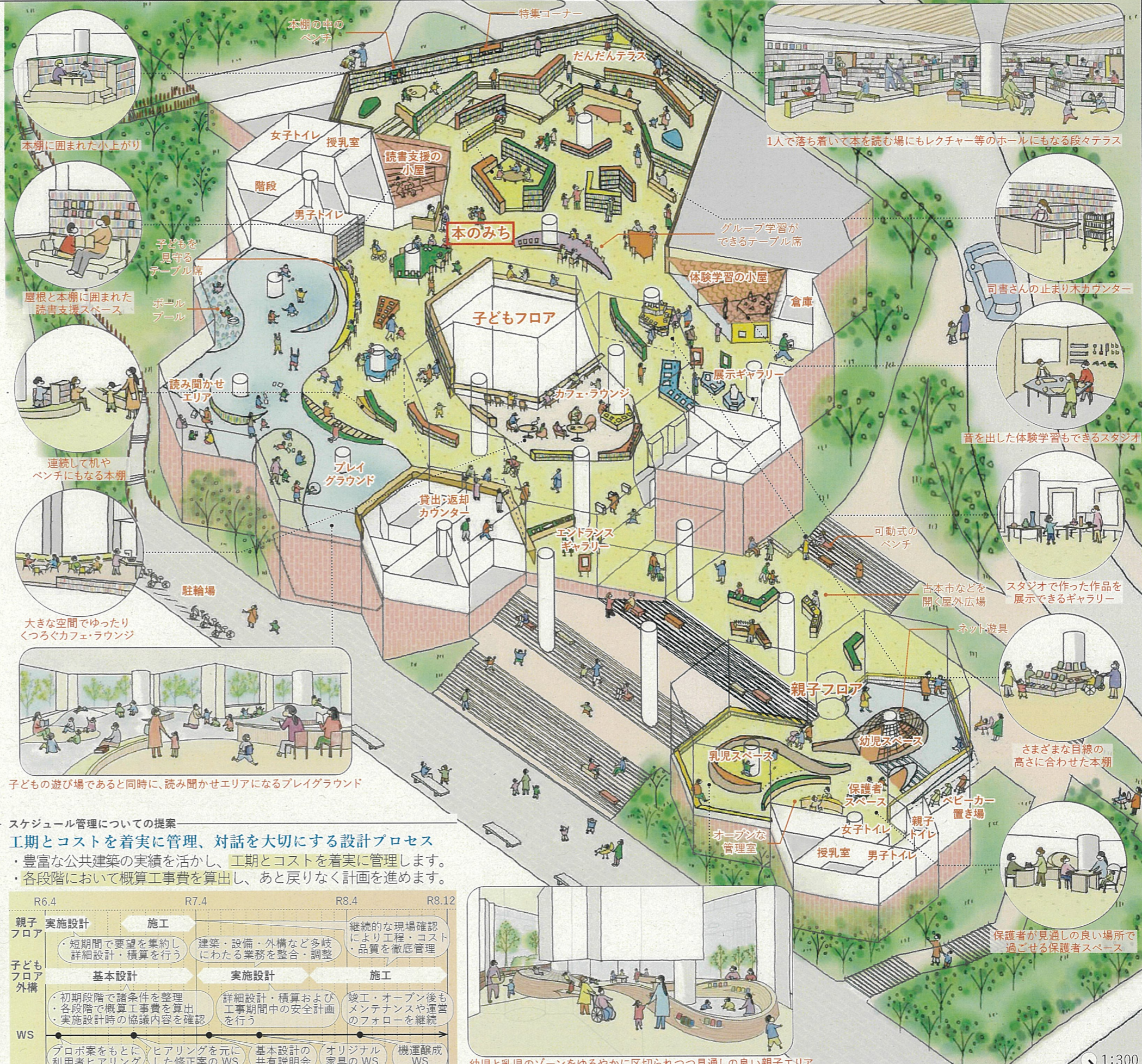
- ・図書館や児童施設の実績をもつデザイナーと協働し、遊びと学びを触発する、親しみやすいサイン計画とします。
- ・子どもや保護者、司書の皆さんとのワークショップや対話を通して、利用者と管理者の双方にとって使いやすい空間を目指します。



図書館設計で中学生とまちについて考えた例



公民館設計でお母さん方と食文化を発掘した例



スケジュール管理についての提案

工期とコストを着実に管理、対話を大切にする設計プロセス

- ・豊富な公共建築の実績を活かし、工期とコストを着実に管理します。
- ・各段階において概算工事費を算出し、あと戻りなく計画を進めます。

	R6.4	R7.4	R8.4	R8.12
親子フロア	実施設計	施工		
子どもフロア		基本設計	実施設計	施工
WS				

親子フロア: 短期間で要望を集約し、詳細設計・積算を行う。建築・設備・外構など多岐にわたる業務を整合・調整。継続的な現場確認により工程・コスト・品質を徹底管理。

子どもフロア: 初期段階で諸条件を整理、各段階で概算工事費を算出、実施設計時の協議内容を確認。詳細設計・積算および工事期間中の安全計画を行う。竣工・オープン後もメンテナンスや運営のフォローを継続。

WS: プロポ案をもとにしたヒアリング。ヒアリングを元にした修正案のWS。基本設計の共有説明会。オリジナル家具のWS。機運醸成WS。

幼児と乳児のゾーンをゆるやかに区切られつつ見通しの良い親子エリア